

情報は最大の武器、知ることを惜しまない

教務課 教職支援センター 鈴木 善幸

「棋士の藤井聡太四段がプロデビューで対戦した棋士は誰か？」これは、今年度実施された教員採用試験で実際に出題された内容です。ちなみに答えは「加藤一二三」です。

学習指導要領が大幅改訂され、次年度以降の教員採用試験の教職教養の問題は、当然新しい学習指導要領からの出題になると考えます。

さて、この新しい学習指導要領は、まだ書店を探しても並んでいません。どこで確認できるのでしょうか？新しい学習指導要領は何年度から実施されるのでしょうか？全校種が一律実施でしょうか？新しい学習指導要領に「アクティブラーニング」という言葉は出てこないって知っていますか？文部科学省のホームページを見たことありますか？教育委員会のホームページを見たことありますか？自分が受けようと思っている都道府県の採用状況を知っていますか？

教育時事を含む時事問題は、常にアンテナを張っていないと、耳目に触れることはありません。常に最新の情報を得るといふ心構えは、教壇に立ってからも必ず役に立ちます。それが学び続ける教員に求められる姿勢であり、知的欲求心を持っているからこそ、幼児児童生徒の前に、新たな世界を示せるのだらうと考えます。

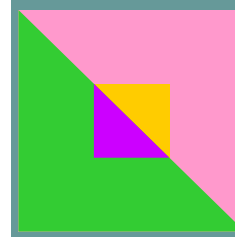
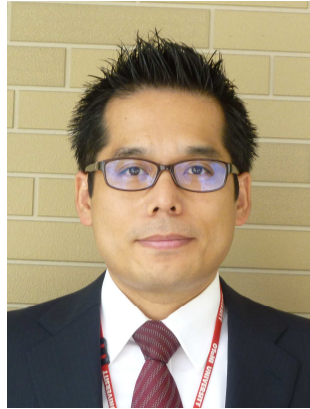
例えば、学内での採用試験説明会等は、それぞれの教育委員会の方針、採用状況を知る絶好の機会です。この説明会の内容を各教育委員会のホームページから拾い上げる方が大変です。

では、日常的に様々な情報に触れる簡単な方法は何か？それは新聞を読む、ニュースを聞くことです。新聞を取らなくても大学図書館設置の新聞を読んだり、ニュースアプリで読むことはできます。これは一つの出来事を文章で第三者に端的に伝える方法も学べ、願書や小論文作成のスキルアップにつながります。またテレビやラジオのニュースを聞くことも、わかりやすい言葉、スピードで相手に伝える方法を学ぶことにつながりますし、面接でも有効になります。

そしてわからない言葉が出てくれば、冊子の辞書を引きましょう。そうすれば調べているわからない言葉の隣の言葉にも触れることで、新しい学びにつながります。スマホで単語検索するだけでは得られません。

文章や言葉で相手へ伝えることは、簡単なようで大変難しく、一朝一夕でできるものではありません。そのためにも日々の訓練と、面接セミナーや小論文講座、願書記入説明会等に積極的に参加することを求めます。

皆さんが目指す教師は、自分の中にある言葉や文章を子どもたちへ伝える職業と言えます。自分の中に十分な知識や情報が無ければ、わかりやすい言葉、わかりやすい文章にはなりません。そのためにもたくさんの情報に見聞を広めて、子どもたちと対話できる教師になってください。

大谷教師塾
教員養成ナビゲータ大谷大学
教職支援センター

第118号

2017. 10. 20

「教員採用選考試験に向けて歩み出すために」

支援センターアドバイザー

教師を目指す3年生のみなさん、来年の教員採用選考試験(教採)まで9か月を切りました。とっくに歩み出している人もいることでしょう。心は歩み出しているが、特に何もしていない人もいるかもしれません。まだまだ念頭にはないという人もいますか？

免許取得と教採の二つのハードルを越えて教師になることは、そう簡単ではありません。「努力と忍耐」「意欲と自分のビジョン」、そして『ビジョンに向けての行動』が必要です。その道のりは、決して甘くはないのです。

サア！今から本気を出して、歩み出しましょう。仲間と刺激し合いながら、自分をしっかり見つめて、力をつけていってください。支援センターでは、セミナー、説明会、講習会等を計画しています。例年、中学校・高校の教師を目指す3年生の「歩み出し」が遅いのが心配です。積極的な参加を待っています。相談も毎日アドバイザーが受け付けています。教採のこと、学校ボランティアのこと等、遠慮なく相談に来てください。

～論作文短期セミナー～ 『ゼヒトモ参加を』

水曜日の昼休み、30分間を利用して「論作文」のセミナーを開きます。

教採では、「人物重視」と言われており、「面接試験」と同じように人間性を判断する資料として多くの自治体で「論作文試験」が実施されています。文づくりの苦手な人、表現力を上げたい人、論作文対策をしっかりしたい人等、来年の教採に向けて参加してください。

このセミナーは、書いて自分を表現する学習です。セミナーを出発点に、「課題」をもらい、「書く」―「添削」を重ねます。「書く」ことによって、自分を見つめられ、自分の考えがまとまったり、面接や討論にも役立ちます。教採に「論作文」の試験がない人も役に立つのがこのセミナーです。

≪全5回 水曜日 12:20～12:50≫

- 第一回(11/ 8) 論作文について(理論と学習の必要性、評価)
- 第二回(11/15) 論作文の基本(三部構成)
- 第三回(11/22) テーマを認識した表現
- 第四回(11/29) 一文の長さ、主語・述語
- 第五回(12/ 6) キーワードの必要性



論作文対策は、一人ではできません。人に見せ添削を重ねることによって、自分の考えを人に解りやすく表現できるようになるのです。書いて上達するのです。みなさんの積極的な参加を待っています。

【お知らせ 講師登録・教員採用試験等説明会】

- 京都市 11月 8日(水) 18:00～19:30 5105教室
- 京都府 11月29日(水) 16:20～17:50 5105教室

ゼヒトモ教師 をめざせ！

『後輩へエール』



教育・心理学科 4年 林沼 香織

私は、出身地の滋賀県の教採を受験しました。3年生の頃は、筆記試験対策を中心に取り組み、小学校で学校ボランティアも続けていました。

特別支援教育に携わりたいと決意したのは4年生が始まる前で、遅すぎる判断でした。自治体の問題頻出傾向、面接、論作文等、早く取り組んでおけばよかったと本当に後悔しています。今の3年生の中で、もし私と同じ段階の人がいたら急いで決断してください。教採対策は、早めに取り組むに越したことはありません。特に滋賀県は、論作文試験に加えて面接カード等、文章記入の量が多いのです。まとまった文章が書けるようにすることが必要です。その対策は欠かせません。そして、友だちとの情報交換は積極的に！！

教育・心理学科 4年 東 花純

私は、教採に向けて「何から取り組めばよいのか」分かりませんでした。だから、アドバイザーの先生方に相談しました。分からないことや不安なことがあれば、まず行動することが大切です。無意味だと思ふことでも、行動に移していけば少しずつ試験に対する「心構え」や「やる気」が出てきます。「やる気」が出てくれば、顔つきや雰囲気まで変わってくるので、先生、友だち、センターの方々から力を貸してくれるのです。

一人で抱え込まず、周りの人と協力しながら歩いていけば、自分の人間性も磨かれていくのです。辛い一年ですが、「ゼヒトモ先生」を目指して頑張ってください。

教育・心理学科 4年 上野 竜太郎

私は、後輩に伝えたいことが二つあります。

一つは、「覚悟」です。3年生の今、「本気で勉強していますか？」「何とかかなると思っていないませんか？」現実、そう甘くはありません。今から少しずつ頑張ってください。子どもは、あなたの笑顔を待っています。

もう一つは、「努力をし続けること」です。私は、2年生から勉強を始めました。初めは、正直全然できませんでした。過去問は、2割くらいしかできません。それから、努力を続け、やっとのことで合格ラインまで届くようになりました。試験勉強は、辛いことが多いです。支えてくれる周囲の人に「感謝」の気持ち持って教職に向けて突っ走ってください。

文学科 4年 柴田 紗也香

私の受けた自治体の教採試験には、小論文がなかったけれど、アドバイザーの先生に何度も添削してもらいました。枚数を重ねるうちに自分の癖に気づいたり、「教員になってどうしたいのか」など、自分に向き合ったりできました。面接対策でも具体的に体験を交えながら話せるようになり、少しずつ自信につながっていきました。模擬授業対策でも教育実習や学校ボランティアでの子どもの様子を思い出しながら、考えることができました。何度もアドバイスをもらい、頑張って練習しました。

アドバイスは素直に受け止め自分の教師力に生かしていこうと思いました。思えば、たくさんの方々に支援してもらい、試験を終えることができたと考えています。

教育・心理学科 4年 中嶋 葉子

教採は、自分との闘いです。筆記試験でも面接試験でも、準備は自分の弱いところを見つけて、できるまでトコトンやるしかありません。「愈けたい」「やりたくない」という弱さに打ち勝つ力を身に付けてください。私は、考え込むと動けなくなってしまいます。だから、とにかく多くの先生方や、先輩方に話を聞き、ガムシャラに勉強しました。分からなくなった時、とにかく調べてみる、聞いてみる。行動し続ければ少しずつ分かってきます。教採は、自分との闘いですが、団体戦です。一人では頑張りがきけません。仲間と支え合って頑張れる環境が整うのです。仲間とともに、己と戦ったことは、一生の財産です。

教育・心理学科 4年 羽田 毅

私は、教採が近づくにつれ「教員に向いているか？」「教員になれるのか？」と不安がふくらみ挫折しそうになりました。そんな時、支えてくれたのが友人や先生、学校ボランティア先の子どもたちでした。特に子どもたちの笑顔に接したとき、「先生になりたい」と強く思いました。この思いが強ければ強いほど、教採を乗り越えられると考えています。

後輩の皆さんに伝えます。教師への思いを大切に、仲間と切磋琢磨し熱い思いを持って教採を乗り越えてください。そして、自分の理想とする「先生」になりましょう。

教育・心理学科 4年 村中 美晴

私が大切にしてきたことは、学校ボランティアの経験です。子どもとの関わりや、諸先生方からの学びに力を入れました。

林間学校や遠足などの学校行事にも積極的に参加しました。そこでの経験は、採用試験の面接にも役立ちました。中でも一番は、毎週小学校に行くたびに「私も子どもたちの前に立ちたい」という思いが大きくなっていったことです。学級担任になって、子どもたちの笑顔を増やしていきたいと考えたのです。この気持ちが、試験勉強に向かう励みとなりました。

もちろん、辛いこともありましたが、子どもからもらうパワーも大きかったです。積極的な姿勢が、やがては自分の力となって返ってくる気がします。仲間を大切に、教採を頑張ってください。

教育・心理学科 4年 若林 結衣

教採に向けて、私が一番大切にしてきたことがあります。それは、「印象」です。私は、本格的に試験対策を始めるまで自分の印象に自信などありませんでした。人前で話す時、すぐに緊張し顔に表れてしまいます。初めて面接の練習をした時、先生に「表情が硬く、良い印象でない」と指摘を受けました。その時、分かっているのにできない自分に腹が立ちました。その日から、友だちや先生、ボランティア先の子どもたちと話す時は「笑顔」を大切にすることを意識しました。

教採は、「印象」が大きな影響を与えると思います。将来、自分が教壇に立った時、どのような先生でありたいのかを意識して頑張ってください。

教育・心理学科 4年 中川 純一

教採に向けて大切にすることは、仲間だと思います。教採の勉強は苦しいことばかりです。そんな時、支えになるのは、仲間です。

私は、大切な仲間に出会いました。筆記の勉強をしながら「お互いに高めようや」と声をかけながら頑張りました。また、模擬授業や面接の練習は、仲間がいて充実します。今、あなたの周りには仲間を本当に大切にしてください。自分のここまでの成長は、仲間のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。最高の仲間と教採を乗り越えてください。みんな、ガンバレ！